

それぞれの サッカー HISTORY

2015 ~ 2016

「サッカーのまち 矢板」
こう呼ばれるようになって
長い年月が経ちます。
その裏で数えきれない人たちが
関わり、歴史を作ってきました。
今号では、今も脈々と引き継がれている
サッカーへの熱い想いの
一端を取り上げ紹介します。
新しい歴史を創っていく
矢板市にご期待ください。



HISTORY

2015.12.31 ~ 2016.1.3



第94回全国高校サッカー選手権大会が、平成27年12月30日に開幕し、矢板中央校高校サッカー部が栃木県代表として出場を果たした。矢板中央高校は厳しい県予選を無失点で突破し、3年連続7回目の出場となった。

この選手権大会は、サッカー少年の憧れの大会であり、マスコミ関係の注目度も高い。全日本代表として活躍する選手の中にも、この大会で結果を残した選手は多い。試合の後には、「矢板中央」「矢板」が、大手検索サイトの検索ワードの上位に入るなど、矢板の知名度アップに大きく貢献している。

試合は、一回戦、二回戦と順当に勝ち進み、ベスト16に入る活躍を見せた。しかし、三回戦では一昨年の優勝校である富山第一高校に逆転を許し、惜しくも敗退した。

今年の選手権は幕を閉じたが、「日本一を目指す」このチームは、新人戦に向け休むことなく新体制をスタートさせた。悔しさを味わった監督、後輩たちにより、これからも歴史は引き継がれていく。

一回戦 12.31 14:10 KICKOFF
等々力陸上競技場

VS 大分

終了間際の逆転勝利！



スローインから森本の同点ゴール

2 - 1

51分 森本ヒマン
79分 真下瑞都

39分 吉田武尊

開始から、180センチを超える長身選手の高さを活かした精度の高いセットプレーを武器に、積極的にクロスを入れゴールを狙うが、相手に阻まれる。前半39分にカウンターによる右サイドからのクロスを合わせられ先制を許し、追いかける苦しい展開となった。

後半から187センチのFW森本ヒマンを投入、得意の空中戦に厚みを持たせた。すると後半11分、真下瑞都がタッチラインから投じたスローインを直接、森本が頭で合わせ同点ゴールを奪う。その後もロングボールから多くのチャンスを作るが、守りを固めた相手を崩せずに試合時間が過ぎようとした後半39分、コーナーキックから森本ら長身選手がおとりとなり、生まれたスペースに、真下が飛び込み頭で合わせ逆転ゴール。持ち味の高さを十分に活かしてつかんだ勝利であった。

二回戦 1.2 12:05 KICKOFF
ニッパツ三ツ沢球技場

VS 鳴門

3発快勝で16強へ！



開始早々、坪川の約50メートルのロングシュート

3 - 0

1分 坪川潤之
58分 人見拓哉
68分 人見拓哉

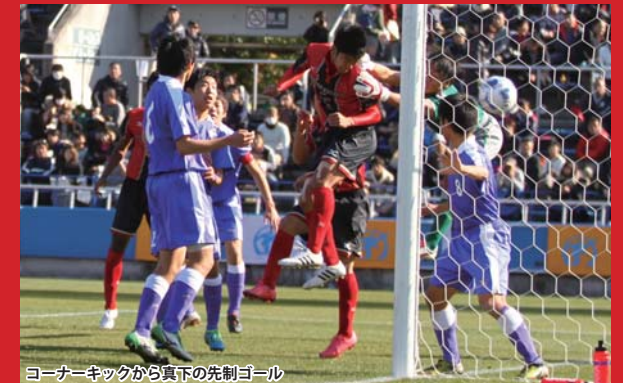
開始29秒。上がり目の相手ゴールキーパーの位置を冷静に確認していた坪川潤之が、センターサークル付近から約50メートルのロングシュートを決め先制。その後も押し気味に試合を進めたが、相手の堅守に阻まれ追加点を奪えないまま前半を折り返した。

後半に入り、一進一退の攻防を展開する中、徐々に流れを引き戻した後半18分。森本ヒマンがポストプレーからボールをキープし、ゴール左からセンタリング。人見拓哉が頭で飛び込み待望の追加点を奪った。さらにこのコンビが輝きを放つ。後半28分にも、森本のアシストから人見が冷静にゴール左にミドルシュートを決め、試合を決定づけた。この日は、星キョウワン、川上優樹ら守備陣が安定し、持ち味の高さで素早いプレスで相手に付け入る隙を与えず、完勝勝利を収めた。

三回戦 1.3 12:05 KICKOFF
ニッパツ三ツ沢球技場

VS 富山第一

ロスタイム逆転許す



コーナーキックから真下の先制ゴール

1 - 2

15分 真下瑞都

50分 賀田凌
82分 柴田丈一郎

前半から、高さを活かした得意の空中戦に持ち込み、主導権を握る展開。ロングボールを前線に集めた。チャンスが訪れたのは、前半15分。コーナーキックから、マークの隙をついて真下瑞都が抜け出し、頭で合わせ先制。その後も積極的に攻めるもゴールをあげることはできなかった。

後半も途中交代の森本ヒマンにボールを集めゴールに迫るが、相手の堅守に阻まれた。また、相手のより攻撃的な布陣変更に対応するも連戦の疲れから足が止まり始めた後半10分、相手クロスのかぼれ球を押し込まれ同点とされる。さらに、後半終了間際、PK戦目前のロスタイム。相手カウンターから左サイドを崩され逆転ゴールを許してしまう。最後まであきらめずにDFも上がり、相手ゴールに迫ったが、試合終了となった。

高橋健二 監督

今年のチームは、1年生の時から出場していたメンバーが多く、強いチームでした。選手たちはよくやってくれました。

来年またチームを作りなおして挑戦したいと思います。市民の皆さん、応援よろしくお願いします。



4 星キョウワン(主将)

もっとみんなとサッカーしたかったし、もっと熱い応援の中プレーしたかったし、もっとキャプテンマークを巻いて試合したかった。本当に矢板中央に来てキャプテンやれて幸せでした。高校サッカー熱くて最高でした。



2 古家秀太(副主将)

たくさんの応援ありがとうございました。毎試合スタンドにみんながいて凄く心強かったです。もっとみんなを上手に連れて行きたかった。すいません。けど最高の応援ありがとうございました。



10 人見拓哉

こんなに熱くなれた高校サッカー。この高校でサッカーでできたことに感謝。出会った仲間へ感謝。本当に濃い3年間でした。楽しかった。本当にありがとう。



3 川上優樹

3年生は次のステージに旅立ちます。もっとみんなとサッカーしたかった。3年間矢板中央の選手として、全国大会に出させてもらい人として成長させてもらい本当に感謝しかありません。3年間ありがとうございました。



11 森本ヒマン

この3年間、仲間と共にやった高校サッカーが終わりました。後悔はしてない。3年連続出場した選手権は自分に夢と希望を与えてくれました。来年からは、大学で夢を追い続けます。ありがとう矢板中央、ありがとう選手権。

第39回全日本少年サッカー大会
ヴェルフェたかはら那須 U-12

HISTORY

2015.12.25 ~ 12.27



三冠を達成した。この偉業は、クラブ始まって以来のこと。選手は12月25日から鹿児島県で開催され全日本大会に参加。出発前に行われた23日の壮行会には、関係者のみならず、サポーターの皆さんなど100人を超える方が集まり期待の高さが感じられた。

一第39回全日本少年サッカー試合結果一
IN 鹿児島ふれあいスポーツランド

- ★1次ラウンド1試合目 12.26 9:30 KICKOFF
vs ピナクル倉敷FC (岡山県) 3-2 勝利
得点:1分#9黒崎皓嗣 7分#11水口嵩大 36分#10鈴木楽維夢
 - ★2試合目 12.26 13:00 KICKOFF
vs スポルティフ秋田 (秋田県) 1-0 勝利
得点:19分#9黒崎皓嗣
 - ★3試合目 12.27 9:30 KICKOFF
vs SSクリエイト (大阪府) 3-5 敗戦
得点:3分#5瀧田尚由 24分#7星景虎 42分#10鈴木楽維夢
- ※この結果惜しくも1次ラウンドで敗退となりました。

TOPICS

たかはら那須スポーツクラブでは、来年度も多くのスポーツメニューを用意しました。多くの方のご参加をお待ちしています。詳しくは、P18-19の教室案内をご覧ください。



39回全日本少年サッカー大会県予選、第44回県少年サッカー選手権大会、で優勝し、県内



福田丞太郎 監督
2勝したにも関わらず1次ラウンド敗退という結果は少し物足りなさが残りますが、これを未来への糧に更なる躍進に繋げていければと思います。応援ありがとうございました。



3 土屋巧 (主将)
チーム全員での目標だった「ベスト4」には届かず、全国19位という悔しい結果で終わってしまったけど、全国大会での色々な経験を今後に活かし、次の目標に向けて頑張りたいです。

(仮称) とちぎフットボールセンター
誘致市民の会

HISTORY

2015.7 ~ 2016.2



11月19日生涯学習館で、「(仮称) とちぎフットボールセンター誘致市民の会」が設立された。この組織は、7月に栃木県サッカー協会が示した、県内で唯一のフットボールセンターの誘致活動をオール矢板で行う組織である。このフットボールセンターは、サッカー選手や指導者の育成強化を行うほか、全国各地から関係者が集まり、練習会や講習会などさまざまな交流の場として活用される地域活性化の拠点として整備されるものである。



市内各所で行った署名活動

この発表を受け、8月に矢板市は県内でいち早くこのセンター誘致に名乗りを挙げ、10月に用地としてJT倉庫跡地を取得。このJT倉庫跡地は、JR矢板駅から南東へ400メートルの場所に位置し、東には国道4号が、また、東北自動車道矢板インターチェンジから車で約5分と、抜群の交通アクセスを有している。さらに、近隣には商業施設や宿泊施設、



県北自治体への誘致協力の要望活動

病院などが集約されており、最高の立地条件にある。市では、このセンターを、拠点として新しい

い人の流れをつくり、まちに賑わいと活気を生み出す「矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略」における重要施策と位置付けている。



栃木県サッカー協会へ計画書と署名提出

11月の会設立から、誘致に向けた署名活動をスタートし、行政区、各団体、個人の方など市内外の多くの方の協力があり、32,034人の署名が集まった。これらの署名は、12月25日に県サッカー協会への計画書と併せて提出した。

また、この誘致活動は、県北の拠点施設とことから、県北の自治体へ誘致協力の要望活動を行った。



栃木県サッカー協会の現地視察

1月14日に県サッカー協会による現地調査が行われ、2月中頃までに候補地が選定される見込みだ。

この施設が誘致されれば、市民の健康づくりや高齢者の生きがいがづくりの場、防災拠点施設機能なども併せ持つなど、公益的な機能や役割を担う矢板市のまちづくりの拠点として整備していく。

TOPICS

(仮称) 矢板フットボールセンターイメージ発表



人工芝2面(照明付き)、天然芝1面、クラブハウス1棟(約1,200㎡) 駐車場211台



遠藤忠 会長
今回の誘致活動では、とても多くの方々のご協力をいただきました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。いよいよ2月中には、県の協会から候補地の選定結果が発表されます。最後まで全力で誘致活動を行って参ります。